

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

主任教授・男性

**思う

- ・ ICT が有効活用されることが前提
- ・ ICT の活用によっては改善する可能性を秘めている。
- ・ ICT の発達による off the job training が on the job training に近いものになり、仕事の効率化がはかれる
- ・ ICT は効率がよく便利であるから。
- ・ ICT 機器、ソフトの利便性が格段に向上し、業務を遂行しやすくなった。
- ・ オンデマンドなどを利用することで、必ずしもその時間になくても講義などができるため
- ・ オンラインで施行可能な会議に割く時間の節約
- ・ オンライン会議は効率化に寄与している
- ・ さらに進むことで在宅で指示を出せたりすると楽。
- ・ そう願っているため。
- ・ データ処理の負担が減ると思われるため
- ・ とにかく移動が減る
- ・ 移動が少なくなり、疲労が減った
- ・ 移動する時間を削減できる
- ・ 移動に使う時間が激減するから。
- ・ 移動の時間を減らすことで効率化が得られている。
- ・ 移動の時間等の無駄な時間を削減できる
- ・ 移動時間がなくなり、院内にいる時間は増えた。
- ・ 移動時間が減って、時間調整がしやすい
- ・ 移動時間の削減・有効利用、情報のオンデマンド取得等
- ・ 移動時間を家事で充てられる。
- ・ 遠隔仕事
- ・ 家で家族と過ごす時間が長くなったから
- ・ 会議などで要らない出張がなくなった。ただし、時間外の会議は増えた。
- ・ 会議への参加が楽になった
- ・ 会議を ICT 化していただけただけで、時短、内職などの点で役立つ。
- ・ 会議出張による移動時間がなくなる
- ・ 会議等による移動時間の短縮
- ・ 皆が使いこなせるようになれば改善できると期待している。
- ・ 学会の会議等で出張する機会が極端に減った
- ・ 業務の効率化が実践できる可能性がある
- ・ 業務効率は改善するので
- ・ 業務効率化に期待しての回答です。
- ・ 勤務時間削減、業務効率化には貢献すると考えるため(質は無視して)。
- ・ 個人としては移動時間の節約になる。
- ・ 効率が向上するので無駄な時間が減る
- ・ 効率化が上がり勤務時間が減るので、自分のための時間が相対的に増える。
- ・ 効率化により余暇が生まれる。
- ・ 効率性の面ではそうである。質をどう維持するかが課題である。これまで外科医の献身で築き上げてきた手術成績を単に効率性だけを考慮して維持できるとは思わない。以前の働き方が良いとは思わないが、今の治療成績がどのようにして築き上げられてきたかも考慮して働き方改革は考える必要がある。
- ・ 効率的な ICT なら
- ・ 効率的にできるようになる
- ・ 今はわからないが、期待はしている
- ・ 在宅勤務が可能となれば
- ・ 雑用の減少
- ・ 仕事とそれ以外の線引きがより明確になる
- ・ 使いこなせる人にとってはいい
- ・ 使い方次第で進むと思われる。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ 事務作業は短縮されるから。
- ・ 事務作業時間が減れば、本来の業務時間の確保がしやすくなると思われる。
- ・ 時間が効率的に使える
- ・ 時間が有効に使える。
- ・ 時間の自由度が増えた。
- ・ 時間の節約、発信場所が限定されない。
- ・ 時間の有効利用
- ・ 時間を効率的に使用できるため。
- ・ 時間効率が上がるのはワークライフバランスの改善に寄与する
- ・ 時間削減が成功すれば
- ・ 時間節約ができることになった利点は大きく、日々の業務も効率的にできる利点も大きいと感じているため。
- ・ 時間的ゆとりが生まれるであろうため。
- ・ 自身の仕事の裁量が少し増える、自由度が増すのではないか
- ・ 自宅からでも会議に参加できる。
- ・ 自宅でも、講演会などを聴講できる。
- ・ 自宅でも仕事ができる
- ・ 自宅でも従事できる場合がある。
- ・ 自宅で行える業務が増える
- ・ 省力化や時間節約が進むので。
- ・ 場所と時間の制約が減少するから
- ・ 場所を選ばないで業務を進めることができるから。
- ・ 情報技術の進歩はあらゆる局面での効率化に資するから
- ・ 職場にいなくても仕事ができる。
- ・ 職場に来なくても家庭で仕事に従事できる点
- ・ 先も述べた様に、ワークライフバランスは個々の価値観によって異なる。私の場合、ワークに ICT を取り入れる事で無駄を削減し、バランスを保っている。
- ・ 全国すべての病院のシステムの統一化されればの限定条件
- ・ 多少は労力が減ると思うから。
- ・ 東京出張の機会が激減する事により、仕事以外に使える時間が増える。
- ・ 同時に複数の仕事が可能となり、効率化が図れる。
- ・ 無駄な会議への出席が減った。
- ・ 無駄な作業が減る可能性がある。
- ・ 労働の効率化

**思わない

- ・ duty が増えたから
- ・ ICT とワークライフバランスの関係がよくわからない
- ・ ICT により効率化しただけ、別のしごとが増えると思われる。
- ・ ICT を使いこなすための仕事が増えるから。
- ・ ICT 化が、必ずしも仕事のやりがいを促進しているとはいえないため。
- ・ ICT 化が進んでも、それに対応するための準備が必要であり、大きくワークライフバランスが改善するとは思えない。
- ・ ICT 化により、マジョリティに対しては効率化が進むが、その分、マイノリティの支援をしなければならない、という側面もあるため、結果として、業務時間はそこまで変化しない。
- ・ output がはっきりしない
- ・ PC での作業量が増えるので
- ・ いつでもどこでも仕事できることで悪化する。
- ・ すでに確立されているバランスが崩れる可能性がある。
- ・ そもそも仕事絶対量が多い為に、多少効率よくなったところで、いわゆるワークライフバランスの回得前には繋がらない。
- ・ チーム力は上がらないから
- ・ やらなければならないことは基本的に減らない。医療は人を相手にしているのです。
- ・ ワークライフバランスではなく、仕事の時間が増やせる。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・意識改革が先である。
- ・医師のすべき診療は患者がいる限り変わらないため。
- ・医師の業務が増えており、医療秘書を活用しないと ICT だけでは不十分
- ・医療環境はそんなに甘くない
- ・医療職は人と接する時間が大切であり、ICT 化で対応しづらいお年寄りや子どもなどではなかなか ICT 化が進みにくい
- ・家での仕事が増える可能性あり
- ・会議の数が増えた。
- ・会議参加が効率的にできる以外はメリットがほとんどない
- ・確認や作業など最終責任は医師にあるので医師の負担を減らす方向には向かわない
- ・関係ないと思います。
- ・既存の労働の効率化が進んでも、ヒトは新たな競争の課題を創り出すだろうから。そもそも適切なワークライフバランスをどのようにして規定するのか分からない。ワークとライフは別個の対峙する概念なのか分からない。
- ・業務が減る以上に増えると思われるので
- ・業務が増えるから
- ・空いた時間に仕事ははいるので変わらない
- ・結局 PC に向かって仕事をする必要があるため
- ・研究者にとってワークライフバランスに拘ると研究の質が落ちることは避けられない。
- ・現在変化がないので、今後もないと考えられる。
- ・現場での業務参画は今まで通り必要不可欠
- ・言語と同じで、理解力が一定ではないので、全体としてのバランスの改善は難しい。
- ・効率化しても仕事が増えるだけで、作業時間の短縮にはつながりそうもないから。
- ・効率化によって、能力のある者がより多くの作業をする必要が出てくると思われる
- ・参画者の窓口は広がるので、良い事ではあります。但し、高度に出来ると、更に高まりを求めて仕事をすると思われるため、結果としては同じくらいの時間働く人が多いと予想します。
- ・仕事はさらに増えるのではないかとと思われる
- ・仕事内容が充実しなくなる。
- ・仕事量が減るわけではないため。
- ・持ち帰り残業が増えた。
- ・自宅でできる仕事が少ないから
- ・自宅でも勤務可能となりバランスが悪化する
- ・自宅でも仕事ができるようになるため
- ・実際が変わってないから
- ・実働業務と ICT 化が並列して存在すれば、意味が無い
- ・充実感が損なわれる
- ・前述のように会議などは増え、休日、夜間の隙間時間を使って学術集会のオンデマンド配信などに参加する時間が増えるため。
- ・他業務に費やす時間が増えるだけでワークライフバランスの改善にはつながらない。
- ・大学病院の人員を増やさない限り、改善しない
- ・入力などに関する雑務が増加するため
- ・余計に手間のかかる手続きばかりがふえていて、睡眠時間が削られている
- ・両者は合理的な関係がないため
- ・臨床の現場は病院であってパソコンの前ではないため

**わからない

- ・ICT がわかりません
- ・ICT が現在そんなに普及していると感じていない。
- ・ICT 化そのものは良い。移動時間が減少するから。しかしそれ以外の要素で ICT の良さが打ち消される。昨今研究費は減少の一途をたどり、大学教員は研究業績をこれまで以上に求められている。そんな状況ではワークライフバランスを改善することは不可能だ。
- ・ICT 化の環境は施設により異なるため
- ・ICT 化の内容によりけり

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ オンラインでできない業務が多いから。
- ・ これはプラットフォームのできに大きく左右されます。
- ・ ワークバランスの改善にはある程度寄与すると思うが、ICT 化の推進の結果が総合的なアウトプットの向上にどの程度寄与するかは今後の状況を見てみないとなんとも言えないと思う。
- ・ ワークライフバランスは本人の満足度による
- ・ 会議が夜にも開催されるようになった
- ・ 期待はしているが、正直わからない。
- ・ 教育、研究、診療業務を担ってくれば改善するかもしれないが、存在意義がなくなる
- ・ 具体的な状況が見透せない。
- ・ 結局使う側がどのような意識で使おうとするかによるため。
- ・ 現時点ではわからない
- ・ 個の置かれている職場環境・状況による (depending on)。
- ・ 個人的な時間の使い方の問題だから。
- ・ 効率化が推進された分、業務量も増えたようには思う。
- ・ 効率化しても業務量の総量が減るかはわからない。
- ・ 今までの回答と同じく、改善することを期待するが、現実異なる。
- ・ 今後の展開次第によると思われる。
- ・ 資料作成は思いのほか時間がかかるが、自宅での作業は勤務扱いにならず (在宅ワークが認められていない)、より時間管理がひっ迫してしまっている
- ・ 時間を小刻みに利用できるため、業務はむしろ増えるかもしれない。
- ・ 自身には影響がないため。
- ・ 自宅にいるときも仕事に参加する場面が出てくる
- ・ 実効性が不明
- ・ 出張は減ったが、一長一短である
- ・ 推進のために人員配置が必要不可欠
- ・ 正直、わからない。
- ・ 未知数
- ・ 無駄、雑務が多い、仕事が増える
- ・ 良い面悪い面拮抗
- ・ 良くなった点と悪くなった点の両方があり、一概には判定困難だと思います。

主任教授・女性

**思う

- ・ ICT をうまく活用できるようになると改善すると思う。
- ・ オンライン会議が増えることで、移動時間が少なくなる
- ・ よいシステムを入れれば
- ・ 移動の時間のロスが少ない。
- ・ 移動時間が減ることで時間が有効に使えるので、時間的余裕が生まれるため。
- ・ 医療は患者さんが相手であり、型通りには進まないため。
- ・ 作業の効率化
- ・ 作業効率が上がる。
- ・ 思うが今の遅いスピードでは期待ができない
- ・ 時間を効率的に使える。
- ・ 時間を節約できるから
- ・ 単純作業は ICT 化できるので
- ・ 無駄な移動時間が削られる。

**思わない

- ・ 時間外の会議が増加したため

**わからない

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ ICT 化と切り離して、まずは、男性の家事・育児・介護の参加を進めることが必要だと思うから
- ・ ICT 化の内容による
- ・ なる場合もあるし、ならない場合もあるから

教授(主任以外)・男性

**思う

- ・ ICT 化できる部分に関しては、改善する可能性があるが、コストをどうするかが問題と思います。
- ・ web 会議が当たり前になることで時間を節約できる。
- ・ スピードアップにつながると思う。
- ・ ただし、もっともっと推進されなければ改善にまでは及ばない。
- ・ もう少し ICT の利用の仕方がこなれてくると、全般的に効率化が進むように思います。
- ・ 移動に必要な時間が節約できる。
- ・ 移動時間が減るから
- ・ 医学部の仕事ではないが、他に任されている学外の仕事については、在宅で行うことが可能になったので現場に赴く時間が減り、自宅での空き時間に効率よくこなすことができるようになった。
- ・ 医師のサポート業務がしやすい
- ・ 遠隔でも診療が可能になれば移動の時間が省ける
- ・ 遠方への出張が減ると思います。
- ・ 家で仕事ができる
- ・ 改善すると思いたい。業務内容からは、訴訟に巻き込まれうることを常に想定して働いています。ICT 化の推進に際しては、政府にはその点でもサポートしていただけるよう期待します。
- ・ 業務の円滑化に ICT は有用であるから
- ・ 兼務が減少するから
- ・ 効率が上がって早くお家に帰れれば(別の仕事が出てきたら困ります)
- ・ 効率よく業務ができ、仕事後の時間をかくほどできると予想するから。
- ・ 効率化が進むことによる
- ・ 効率的に業務を済ますことが可能になると予想されるから。
- ・ 在宅勤務が可能になる
- ・ 在宅勤務の増加
- ・ 作業時間の短縮
- ・ 仕事時間の短縮につながる。
- ・ 使い方
- ・ 紙ベースは時間の浪費
- ・ 紙媒体の作業に比べて労働時間の削減には寄与すると思う。
- ・ 時間が捻出できる
- ・ 時間が有効につかえる(移動時間の短縮)
- ・ 時間と場所を効率よく使えるために私生活に使う時間を増やせるため
- ・ 時間に余裕が得られる感じです。
- ・ 時間の有効な利用が進む。
- ・ 時間の有効利用が可能になること
- ・ 時間を確保できる
- ・ 時間短縮。
- ・ 自宅での作業も増やすことができる
- ・ 自分のような高齢の医者は最初は抵抗ありますが、慣れれば効率的であることがわかります。
- ・ 実際に現地に赴く必要がなくなるため
- ・ 手間の省力化、迅速化が期待できるので。
- ・ 出張が減れば改善の可能性はあるが、その他は変化ないと思う。
- ・ 出張が減れば出費も減るから。
- ・ 将来の在宅診療や講義が可能となる事が期待できる。
- ・ 将来はよい方向に変わってくれることを期待したい。
- ・ 情報交換がしやすくなり、空間的・時間的な問題をこえて仕事に参加できる

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ 診療業務が改善される可能性がある。
- ・ 単純に作業時間の効率化が期待される。
- ・ 無駄な時間が削減できる
- ・ 連携が取りやすくなる。

**思わない

- ・ ICT では解決できない問題が多い
- ・ ICT 化に職場が対応できていない。
- ・ コロナ禍にてすでに ICT のメリットは普及してしまっているので、これ以上に改善の余地は乏しい。
- ・ そこまでの効果はないと考えます。
- ・ メールが多すぎる。
- ・ 闇残業が増えるだけです
- ・ 移動・宿泊に費やしていた時間が顕著に減ったが、結局、他の業務に時間が割かれるので、全体の労働時間は変化が無い。
- ・ 嘘の申告が増えるだけ
- ・ 会議などの時間調整を検討すべきである。
- ・ 却って業務が煩雑になり、思っただけの効果が得られないことからストレスも多い。
- ・ 休日や遠隔業務が増える可能性が高い
- ・ 具体的にはよくわからないが、印象として。
- ・ 結局電子カルテと同様で、やっていることは同じ。
- ・ 現場時間が減っても、拘束時間は増える。
- ・ 個人の問題のため
- ・ 効率はよくなるが、現地での出会いなどがないのでモチベーションアップにはつながらない
- ・ 思ったより使いにくく、手間がかかる。
- ・ 若年医師が対応できない事案で年長者が呼び出される、または長時間手術に対応を迫られる。
- ・ 診療にすぐ反映するとは思えない
- ・ 切り替えは困難
- ・ 別の業務が増えるため
- ・ 余裕ができた時間に対して新たな業務が発生している
- ・ 量が増えるだけ

**わからない

- ・ ICT の活用法自体に複雑性があるうえ、作業に慣れる前にソフト等の変更がある
- ・ ICT 化しても、やるべきことは山のようにある
- ・ ICT 化には一長一短があるから。
- ・ そんなに上手く ICT 化が進むとは思えないです
- ・ どちらともいえない。良い面と悪い面がある。
- ・ やってみたいとわかりません
- ・ ワーク制約時間の減少がワークライフバランスの改善とは結びつかないから。
- ・ 医療に ICT が必要かは懐疑的
- ・ 改善すると期待したいが現場は厳しい。
- ・ 具体的なイメージがわかりません
- ・ 個人の状況によって異なる。
- ・ 効率化が図れれば良いが、また別の問題が発生する。
- ・ 国や各施設のやる気次第と思う。
- ・ 使い方によっては、何かのメリットがあるかもしれないが、今のところ変化はないので、わからない、ということになる。
- ・ 実際にやってみないとわからない
- ・ 実施する側と受ける側の成熟が見通せない。
- ・ 人それぞれだと思われる。
- ・ 得るものと失うものがある。
- ・ 便利になる部分もあるが、結局は仕事が増え、確認や責任の所在という問題で負担が増えていく懸念を感じる
- ・ 両者はつながらない

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ 良い面もあるが、悪い面もあるのかと思う。

教授(主任以外)・女性

**思う

- ・ オンラインで講義や学会に参加できることで、若手は勉強しやすくなったと思う。在宅でも学会や講義に参加できるようになり、子育てや介護、自身の病気の医師にとってはプラスとなった。
- ・ 家事や育児で学会や講演会に参加できなかった医師も、オンラインで参加して単位習得することができる。
- ・ 現場と家でできる仕事が分けられる
- ・ 効率化が図れる
- ・ 時間の使い方について自由度が上がる。
- ・ 自宅から様々な会議に参加できるため、家事に費やす時間が増える
- ・ 有効活用することができれば。

**思わない

- ・ ICT 化の活用や管理の費用が掛かる。
- ・ 業務内容を規定する必要があると思います。
- ・ 業務量が増えている。
- ・ 仕事の本質や修練の時間が減るわけではないから。
- ・ 全体の意識の問題だから

**わからない

- ・ ICT 化による問題点について未知
- ・ 会議帯の時間設定次第で改善できるのに、会議帯を決める人が昭和的な考えの方だと難しい
- ・ 在宅での滞在時間が増え、介護を要する家族に対応できる反面、気詰まり感等による別の問題が浮上してくる。対応できる安心と気詰まり感の比重は日々変化するため、「わからない」となる。
- ・ 多少自由時間が増える可能性があるが、収入が減る可能性もあるため。
- ・ 良い面と悪い面があると思う

准教授・男性

**思う

- ・ 「ワーク」の効率化により「ワーク」時間が減少すると思われる為
- ・ ICT により時間の使い方の無駄がなくなる可能性がある
- ・ ICT の利用方法に依存すると思うが
- ・ ICT 化が業務時間の短縮につながると思われるため。
- ・ チーム診療における迅速な情報共有には有用である
- ・ どこでも会議に参加できる(web 会議)。データ紛失の危険がない状態でどこでも仕事ができる(クラウド保存)。
- ・ どこまで進化したものを受け入れるかに関わりますが
- ・ ミーティングへの自宅での参加や、雑務の負担軽減につながる可能性があるため。
- ・ もっと家でできる仕事が増えるでしょう。
- ・ リモートでの移動時間節約が大きい
- ・ 移動などの時間が削減できるため。
- ・ 移動時間が減った分を、他の仕事などに充てられる
- ・ 移動時間の減少により生まれた時間を有効に使用できる
- ・ 移動時間の削減、任意の時間での情報収集できる機会が増えた、自宅からも会議に参加できるため在宅ワークにより組織内での役割を果たすことができるようになり産休・育休・家事等での在宅ワークがし易くなっている。
- ・ 育児に関わる世代が上手に ICT を駆使することで最新の医療を学ぶ機会が増えると思います。
- ・ 一部現場に行けない人にはとてもいい手段である
- ・ 院外にいても、医療に接する機会が増える(すきま時間の有効活用につながる)と思っています。
- ・ 遠隔で仕事とプライベートでの手続きが済めば、時間的、経済的余裕が生まれるから。
- ・ 遠隔読影が可能となった
- ・ 家庭を持つ女性医師などには効果的かと思います。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ 会議にどこからも参加できる
- ・ 会議に費やす時間が減る
- ・ 会議や学会のオンライン化で週末の出張が減った。
- ・ 学会に出向く時間が節約できる。それを自分の私生活の時間に充てられる。
- ・ 学会の現地参加が減る
- ・ 学会や会議のための週末の出張回数が減るため。
- ・ 簡素化できる
- ・ 業務が効率化される可能性。
- ・ 業務の効率化が進めば、時間に余裕ができることが期待出来るため
- ・ 業務の効率化による残業の短縮
- ・ 業務の最適化をすすめることで得られる恩恵はあるはずです
- ・ 検索そのものが時短化できる点
- ・ 効率化による時短が期待できる
- ・ 効率的になるため
- ・ 効率的に時間を使えるようになる
- ・ 最適化されれば
- ・ 在宅でできる勤務が増える。
- ・ 在宅勤務など多様な働き方が可能になる。
- ・ 雑用が減ると思う。
- ・ 仕事が多いのが変わらなくても、隙間時間をうまく使えるようになる。
- ・ 仕事以外の時間が確保できる
- ・ 子育てが必要な医師などが自宅で可能な仕事が増えれば便利である。
- ・ 資格取得と維持、及び知見を広める目的の聴講を要するレクチャーや学会参加実績について、移動時間を考慮せずに済むことは、全ての面において非常に大きい。
- ・ 時間の有効活用が可能となる
- ・ 時間を効率よく使える人には改善がある
- ・ 時間短縮には役立っているのだから
- ・ 時間的配分の効率化
- ・ 時間配分が大きく異なる
- ・ 自宅で可能な業務が増えたため。
- ・ 自宅で済ませることが可能な仕事が増えると思うから。
- ・ 自宅で作業できる点で時間を有意義に使える。
- ・ 自分の時間が持てるようになる。
- ・ 自由に使える時間が増える
- ・ 実際に家で子供の世話をしながら、会議だけにスポット参加できている
- ・ 実際に自宅で子供の面倒を見ているときも、会議に参加できた
- ・ 実際に導入できれば
- ・ 職場での拘束時間が減る
- ・ 人によっては在宅での業務が可能になると思うから
- ・ 全体的に移動時間の負担が少なくなった
- ・ 多少は期待しています。はじめは医療精度は下がるとは思います。
- ・ 不要な会議や学会は参加だけできるようになった
- ・ 物理的移動・準備にかかる時間が大幅に節約できる。
- ・ 無駄と思うことを省けるようになった
- ・ 無駄な仕事が減る
- ・ 無駄な時間を減らせるため。
- ・ 有効な ICT 化がなされることが前提です。
- ・ 余計な時間短縮のため。
- ・ 利便性が上がれば業務効率が上がるから。

**思わない

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ ICT が進んでも勤務時間が変化がないのであればワークライフバランスは改善しない
- ・ ICT ではない。意識が重要である。
- ・ ICT を受け入れることのできる寛容性や能力のある集団であれば問題ないが、そうでない人間が一定数いる。さらに電子的な連絡手段を業務と思わない人たちも多く、平日休日昼夜問わず連絡を入れてくる人間がいる。テレワークの形態をとると、いつでも連絡しそれに対応するのが当然と思っている人がいる。
- ・ ICT 化が完全なものではないため、逆に時間を費やすケースも存在するため。
- ・ ICT 化で逆に複雑な仕事は増えると考えから
- ・ ICT 化により省略できる業務が限られている。会議については、改善の可能性がある。
- ・ ICT 化に対する過剰なリスクを考慮するあまりアナログを併用した方法が多々見受けられ、余計に手間がかかっているため
- ・ ICT 化のために余分に時間がかかる場合もあるので
- ・ ICT 化の推進により既存の勤務時間削減や業務効率化が達成できたとしても、別のタスクを割り当てられる可能性が高いから
- ・ ICT 化の推進のみで、自分の業務量が減少するとは感じられない。
- ・ Web で学会・研究会・会議に参加する時間は、休日・夜間となっており、ワークライフバランスは悪化している現状が既にある。
- ・ かってオンオフがはっきりしなくなる
- ・ この国の対策は常に絵に描いた餅 入国手続き一つにしても実際ダメだった
- ・ どうしても人相手の仕事なので、ICT 化で改善することは少ない
- ・ とても忙しい。
- ・ ほとんど影響しない
- ・ やることは変わらないため。
- ・ ワークの定義によります。大学病院では教育・研究の定義が曖昧。医学部以外では教育・研究が仕事であるが医学部はどうかという問題が大きいと思います。教育・研究に従事しない市中病院の医師の方が高給であることの是正が必要だと思います。
- ・ ワークライフバランスを規定する一因子に過ぎないと思うから
- ・ 院外、時間外も拘束される。
- ・ 家庭での仕事が増えるので変わらない気がする
- ・ 過去の政策で改善したものがいないため、所詮机上の空論で現場の状況を理解していないため
- ・ 完全に自己意識の問題である。改善するもしないも。
- ・ 管理職はより楽になり、現場の医師は余計な事務作業が増えている。
- ・ 具体案が見えない
- ・ 具体的な利用法が解らない。
- ・ 結局自宅で帰宅後に仕事をする。
- ・ 現在の ICT 化は、手段が目的化しているため、本来の勤務者の負担を減らす目的から外れて、むしろ細々とした雑用や入力等の事務作業が増える方向にあると思う。また、絶対に削れない仕事は減らないので、ワークライフバランスが改善する人と、悪化する人の分断が進むと思うから。
- ・ 公私の境があいまいになる
- ・ 効率よく学会参加可能となるため
- ・ 行うべき仕事量が ICT 化によって減るとは思わない。
- ・ 今のレベルの ICT 化では進まない
- ・ 根本は OECD 加盟国中最下位クラスの医師不足、特に勤務医不足です。
- ・ 雑用が増えたが、家でできるので問題ない
- ・ 仕事が以前よりも増えているのに、改善するはずがない。
- ・ 仕事量は変わらないから
- ・ 使用法に慣れるのに時間が必要
- ・ 時間を効率的に使える
- ・ 時間的には、あまり変わらないと思うので。
- ・ 次々と新しい技術が生まれ、それに対応していく必要があるから
- ・ 自宅勤務をもう少し許容してもらえないと、ICT の効果が見えないと思います
- ・ 社会がついていってない
- ・ 準備にかかる手間は一緒
- ・ 少子高齢化対策を解決しないと、高齢化による日本社会のデメリットが更に顕在化します
- ・ 新しいことが生まれればその業務遂行のためのあらたな課題や調査が出てきて、さらに多様な業務が増す可能性があるため
- ・ 診療や教育への抜本的な変化を起こさないと変わらないと思う

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ 進化すれば将来的に改善するかもしれないが、現時点では逆に悪化している
- ・ 推進がうまくできていない
- ・ 前述の通り
- ・ 全くわかるイメージが湧かないため。
- ・ 中途半端な ICT 化でむしろ業務が増える部分もある
- ・ 直接的な関連性がない。どのように時間を割り振りするかだけで別問題だから

**わからない

- ・ ICT の使い方次第。例えば在宅で勤務可能なら QOL は改善するかもしれない。
- ・ ICT 化で無駄な業務が軽減することは確か。しかし一部の業務の効率化だけで根本的に解決する問題ではない。ICT ではなく「人」に投資する、という哲学がなければ、絵に描いた餅。
- ・ ICT 化とは何か具体的に見えない
- ・ ICT 化により業務毎の共有化や効率化は図れるが、人の少ない部署では 1 人あたりの負荷が大きくなるので、なんともいえない。
- ・ ICT 化により自宅や外出先などからの業務が一部可能になれば効率化はされるが、生活圏内に業務が入り込むことでワークライフバランスが改善するのかわからない
- ・ ICT 化による直接の影響はワークライフバランスに対しては小さいと考えるため
- ・ ICT 化の推進が、具体的に何を指すのか不明である。
- ・ ICT 技術をうまく使いこなせば改善する。
- ・ いつでもどこでも作業ができるようになると、自宅で勤務時間外に行う作業が増えるように思う。
- ・ いろいろな要因があるため
- ・ これもケースバイケースと思われる。
- ・ まだ進んでいないため
- ・ よくなる部分と悪くなる部分があり、最終的にどちらの方がいいかわからないから
- ・ 何に対してメリットかわからない
- ・ 勤務時間に計上されないタスクがさらに増えると予想している。
- ・ 仕事の量は減らないので
- ・ 仕事量が減ることはない。休日の会議が増えた。
- ・ 時間外の仕事(会議やミーティングなど)が余計に多くなっている
- ・ 自身に寄与する ICT の功罪が、現時点では見えてこないため。
- ・ 実際に実感できていない。
- ・ 少なくとも現在は、改善が乏しい。
- ・ 診療において対面でもオンラインでもかかる時間はあまり変わらないのでは
- ・ 全体の業務内容が減らないため
- ・ 別のスキルを要する
- ・ 便利になった分、しなければいけないことも増える。
- ・ 良い点と悪い点がある。

准教授・女性

**思う

- ・ アクセスが容易になる
- ・ オンデマンド配信など自由に授業形態を選択できるようになると子育てとの両立がしやすくなりました。
- ・ 移動に要する時間が減るから。
- ・ 移動時間が不要になった。
- ・ 移動時間を削減することで、時間を有効に使える。
- ・ 会議や学会参加のための移動時間がなくなるといい。
- ・ 現時点は思いつかないが、やりにくさを感じているところを ICT で改善できるはず。ただ初期は単純に行いすぎて思い及ばない点がありそう。
- ・ 交通に使う時間を家事に回せる
- ・ 参加できる講義や会議が増え場所を。しかしどちらにも対応できるようにするには相応の準備が必要となる。
- ・ 時間が確保しやすくなる

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・時間が自由に使えるため
- ・時間は短縮できる可能性、場所を選ばず参加できる可能性がある。
- ・自己研鑽が隙間時間でできるようになる。
- ・自宅からデータを見たり指示が出せるとよい
- ・自宅からの会議や学会への参加も可能、地方からの移動もなくなるため。
- ・自宅での勤務など可能になるから
- ・実務者同士の会議もオンラインで実施可能となり、移動時間が不要となるなど、業務に付随する時間の削減がなされているので。
- ・出勤時間の自由化やリモート会議など、家庭の事情に合わせた働き方ができると思うから。
- ・短時間で最新の知識が得られる。
- ・無駄な時間を減らせることを期待しているから
- ・連絡や業務の効率化がはかりやすい

**思わない

- ・オンライン診療などでは十分な診療が行う事ができないと思います。
- ・それなりの人の手による準備が必要だから
- ・ワークライフバランスを実現する一つの手段が ICT かもしれないが、人を増やすことなく、そこにお金をかけることなく、耳障りのいい「ICT」と言ってやりすごすことに無理がある。
- ・家でする仕事が増えるだけ
- ・基本的な業務が減るわけではないから。

**わからない

- ・ICT 活用で、距離的な問題は解決できるが、個人の時間を増やせる訳ではないから
- ・かえって会議が増えた感じもある
- ・ワークライフバランスは個々の労働者によって理想とするバランスは異なる
- ・遠隔で電子カルテを見られるようになれば確かに特定の場所での拘束は減る。しかし結局仕事をしている。見に行っても現場で確認した方が実は短時間で済むこともあるのでなんとも言えない。
- ・具体的なイメージが未だもてない。
- ・時間ができれば他の仕事をしなければならない

准教授・回答しない

**わからない

- ・「ICT化の推進」と言うのが抽象すぎて。
- ・自分の生活があまり変わっていないから

講師・男性

**思う

- ・オンデマンド等の利用で、空き時間を役立てやすくなるため。
- ・オンラインツールを駆使することで、わざわざ現場にまで出向かなくても仕事が済むものが出てきた。
- ・オンラインでの会議、講習、単位取得により、時間と手間が削減できる。
- ・オンライン会議への遠隔参加で無駄な会議に拘束される機会が少し減ったから。
- ・オンライン学会などの仕組みにより移動などの時間が減るため。
- ・オンライン機能の活用等により自由度が上がるため
- ・すべてにおいて時間が save できる可能性がある
- ・ただし、個々の活用の仕方により異なると考える。
- ・とにかく移動時間の無駄を省きたい
- ・なんとなくそう感じるため
- ・もっともっと推進してほしい、対面など意味がない
- ・リサーチが楽
- ・ワークの時間が減るから
- ・移動・集合の時間を削減できる

45. ICT化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ 移動が減るため 時間が取れる
- ・ 移動による肉体的なストレスや時間の消費が軽減された。自分のオフィスで業務が完結する。場合によっては自宅でも対応できる。無駄な時間がなくなったことで、必要な業務に割ける時間が増えた。
- ・ 移動や待ち時間が少なくなり、ワークバランスの改善に寄与すると思う。
- ・ 移動時間を有効に割り振ることができるため。
- ・ 移動等の時間短縮、効率化することにより、時間が増えるのはいいと思う。
- ・ 遠隔での診療記録確認が可能となり、効率化が進むため。
- ・ 可能性を秘めているという意味
- ・ 家からでも必要な会議等に参加できる。
- ・ 家事に使える時間が増えるから
- ・ 家庭からも参加できる
- ・ 会議がオンラインでもできることがわかり、不必要に集まっていたのだなということを実感しています。特に管理に関する会議です。
- ・ 会議や書類に費やす時間は減る可能性はあるがまだ十分ではない。
- ・ 改善すると思うがいろいろ改善点は多数ある。
- ・ 業務の効率化が進む
- ・ 業務時間短縮
- ・ 勤務の都合で参加できなかった学会にも参加できるようになった
- ・ 勤務時間内での業務効率が上がり、個人の経済的収入が維持されるかあるいは向上するのであれば、個人の自由時間や余暇への配分を増やすことができるから。
- ・ 個人の時間を大切に作る気風になる可能性がある。
- ・ 交通時間が節約できる。
- ・ 効率が改善されるため
- ・ 効率が良くなり、ワークバランスは変化すると思う。
- ・ 効率は良くなる。無尽蔵に湧き出てくる仕事量全体を減らさないと効果はないが。
- ・ 効率化が進むため。
- ・ 効率化する部分はあると思う
- ・ 効率的に仕事ができるため
- ・ 講義をアーカイブ化できるから
- ・ 時間が確保出来るようになるため
- ・ 時間が有効に使えるから
- ・ 時間と空間の短縮、情報移動の利便性は良くなる。
- ・ 時間の確保はできるが、移動という運動がないので不健康になりそう
- ・ 時間の効率的な使用が可能となる。
- ・ 時間の節約になり負担が軽減される。移動時間等。
- ・ 時間や業務が節約できる
- ・ 時間短縮ができれば
- ・ 自身の時間が増えるため。
- ・ 自宅から業務(特に教育)に参加できる。
- ・ 自宅で過ごせる時間が増えるため
- ・ 自宅で仕事をすることが可能になります
- ・ 自宅や出先から会議に出席することができるため、行動に制限が無くなった
- ・ 自宅や他の場所からでも参加可能なため。
- ・ 自分の時間をより確保できるようになるから
- ・ 自由時間が増えれば、バランスをとりやすくなると考えられるため。
- ・ 実質的な業務分担が可能になれば、ある程度の業務が均てん化するため
- ・ 従来の移動時間を有効に活用できる。
- ・ 出張で留守にする時間が減った分、子どもと過ごせる時間は増えた。週末だけですが。
- ・ 上手く活用すれば可能
- ・ 場所の移動が必要ないので、効率が良くなると思う。
- ・ 場所を選ばず参加できるため。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・情報の共有はスムーズになる
- ・総合的に自分の時間は増える
- ・適切に使えば業務負担が軽減されるため
- ・在宅勤務により、通勤時間のロスが減る。家族と過ごせる時間が増える。
- ・特に教育において座学では効率化が図れるため、大学病院の教員としては有益と考える。
- ・避けられない方法であり有効に作用してもらわないと困る
- ・普通するものだと思います
- ・無駄が無くなる可能性があるため
- ・無駄な移動がなくなれば時間を有効に活用できる。
- ・無駄な業務や非効率的な業務時間が減少すると思うから
- ・無駄な拘束が減る
- ・無駄な作業が減るため
- ・無駄な出勤が減らせ、自由時間が若干増えると予想する
- ・無駄な書類が減らせる可能性がある
- ・有用な資料の使いまわしがやりやすくなった。
- ・余剰時間ができる。

**思わない

- ・ICTでの負担軽減が不可能なレベルの業務量がそもそも存在するためです。
- ・ICTの問題は小さいと思います
- ・ICTは単にツールであって、ワークライフバランスという生き方(考え方)への関連性は考えにくい
- ・ICT化にもそれなりの煩雑さがある。
- ・ICT化により効率化されていないように感じるから。
- ・ICT化の推進は仕事の効率化や改善に重要であり必要だが、ワークライフバランスを改善するまではいかないと思う。若者が減り、高齢者が増え、労働意欲の少ない若年層が増え、以前と比べ人口減少し、労働人口が減っていている日本において、今の診療水準を保つことはICT化だけで達成することは至難であろう。ICT化によって移動時間が減ること、情報伝達がスムーズになることで少しはワークライフバランスは改善に寄与するかもしれない。
- ・オンサイトが原則である限りは不便さは解消されない。学会などの研修は効率化できるかもしれない。
- ・オンデマンド化の効果は期待できるが、現状生活にまでは影響しないと考えるため。
- ・オンラインになったことにより、会議や学会、講演の機会が増えてもいるから。
- ・オンラインによってオフタイムが減る恐れがあるため
- ・そこまでのICT推進までは至っていないため。
- ・それぞれの効率はよくなると思われるが、その分他の領域に関心が広がるまたは専門性をさらに追い求めることになるから
- ・それは別問題
- ・どこでも仕事ができるため。
- ・パターン化された業務が少なく、リモートワークができるわけではないので、ICT化が進んでもワークライフバランスは改善しないと思う。
- ・むしろ参加させられる会議が増えて可処分時間は減った
- ・やること増えただけ
- ・やる仕事の量は減らないから。
- ・ワークライフバランスにはあまり関係ないと思います
- ・移動時間が不要になったが、オンライン会議が増え、夕方から夜に開催されるから。
- ・移動時間が不要になった分だけ現場の業務を増やされているから。
- ・医療の質を落とせば回るでしょう。
- ・医療はリモートで出来ない部分がある
- ・医療業務では科によって差がある
- ・何かが効率化されても、大体そのような時は別の仕事が増える
- ・改善点がみあたらない
- ・患者の管理など、直接確認しなければわからない部分も残る
- ・管理業務などが一部の管理者権限のある医師に集中するようになり、より業務が増加している。自宅ですることが増加し、病院から離れることができるようにはなっても、自宅ですべて書類業務を行うようになり、結果としてワークライフバランスは悪化して

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

いる。

- ・逆に改善すると期待される事由が全くわからない
- ・救急現場ではそのために患者へのアプローチが逆に遅くなる
- ・業務時間に大きな変化はないから
- ・勤務時間外もオンラインでずっと仕事。
- ・結局スライドや資料の準備をするのは大変であり変わりがない、むしろ面倒なことが増えてわずらわしいと感じる。
- ・結局患者さんを直接見ないと医療の質は担保できないと思うから
- ・結局業務量自体は減らないし、職務を分けられる職員が出てこないかぎり自分が対応する業務は減らない。
- ・結局準備が大変なので。
- ・個人的にはむしろ仕事が増え悪くなっている。
- ・効率化によって出来た時間で、また次の仕事をしなければならぬため
- ・拘束時間は減少しないため
- ・今のままでは、勤務時間外のオンライン会議が増えて、そのための作業時間も必要となり、労働時間はむしろ増加し、しかも無給労働時間が増加している。
- ・在宅でのオンライン会議・学会参加により、オンとオフの境目が曖昧になっている
- ・雑用は増える一方だから。
- ・仕事する人は業務量が増え、仕事しない人は業務量が減るから。
- ・仕事の内容、量、人員が変わらない
- ・仕事時間は変わらないから
- ・使い方よると思われる。
- ・資料づくりが大変になる可能性がある。
- ・自由な時間が増えるわけではないと思われるから。
- ・実感できないから。
- ・実際に夜間や休日に病院に来られる人が増えないと改善はしないとします。
- ・情報交換の速度が速くなった。また会議で集合する手間が省けた。
- ・診療時間外の仕事が増えるだけです。
- ・進んでみないとわからないのでは
- ・人員を増やして、一人当たりの仕事を削減しなければ何も変わらない
- ・単に ICT 化したらいいいのではなく、内容を改善しないと意味がない。
- ・中途半端な ICT 化はかえって業務を増やす印象がある。
- ・入力は 24 時間できるため、
- ・病院外での業務が増加する。
- ・負担が特定の人に集中するシステムは変わらないから
- ・変わらないと考えられる。医師の働き方改革の悪影響が大きいから。
- ・便利なことが普及すると、行うことが余計にふえる
- ・良い面と悪い面が相殺
- ・労働の質や時間に対する正当な評価(報酬等)を先に整備すべきなため。

**わからない

- ・ICT 化が進んでいると感じていません
- ・ICT 化で在宅勤務などが可能になるとは思いますが、そのこととワークライフバランスは別物と思います。
- ・ICT 化とワークライフバランスは別次元の問題であると考えます
- ・ICT 化により仕事が減る部分が想像できない。
- ・ICT 化の推進での効率化がイメージできない。
- ・ICT 化の中身による。
- ・いい面もあれば、悪い面もある。
- ・いつでも繋げない権利も大切
- ・いろんなメールが大量にくるだけで返事や書類作業だけでもかなりの時間を要し実感しない。
- ・うまくいくかわからない
- ・オンラインの学会や講演会、会議など参加しやすいが多くなるとそれに時間をとられる
- ・ここでいう ICT 化が具体的にどういう状態、利用をさせているかわかりません。そのため以下回答しづらかったので無回答な

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

いしわからないとしました。

- ・してないのでわからない
- ・そもそも地域コミュニティを含め、医学部病院が ICT 化についていけない。
- ・どこまでの ICT 化を勤務先が施行してくれるかが一切不明
- ・ワークライフバランスの意味が多様すぎる。
- ・家からも勉強会に参加できてしまう。何か仕事が減ったら、だいたい別の仕事が増えるから。
- ・業務量が減るわけではないため
- ・功罪両方あると思います。
- ・効率が上がれば、その隙間に次の業務が入る。
- ・効率化される部分も増える一方で、業務内容も増えるので時間削減には至らないため
- ・自宅で電子カルテが閲覧できれば変わるだろう
- ・実際にどれほど変わるのかがわからない
- ・取られる時間は同じ
- ・何処でも仕事ができる、離れられないと言う事でもある。
- ・情報の管理など上手く使えば改善すると思う。一方で、オンラインを過度に使用し正当な休暇が阻害される可能性がある。
- ・前記のように ICT 化のメリット、デメリット両方あるため
- ・想像がまだできていない
- ・適切なシステムを使用しないと効率化が達成されないばかりか煩雑な手続きが増えるだけになったりする。
- ・分野・内容によっては業務が増えてしまう可能性もあり、うまく活用していく必要がある。
- ・良くなる面もあるが、休日でも仕事や研究の業務に縛られてしまう側面もある

講師・女性

**思う

- ・ICT で効率的な業務になれば、WLB 推進につながる。しかし、IT リテラシーが足りず、効率的にできない部分もある。大学側は、教員にそういった基礎的な部分の教育も提供してほしい。もしくは、サポートしてくれる人がいると助かる。
- ・ICT 化の推進で雑用と言われるような業務が減れば、改善すると思われる。
- ・ICT 化の推進は時間の効率化に繋がるから、プライベートの時間により多くの時間を使ってワークライフバランスは改善する。
- ・ライフに避ける時間が増える
- ・ワークライフバランスは改善する可能性がある
- ・移動の時間が確保できる
- ・移動時間が不要となると業務に使える時間が増える。
- ・移動時間の減少が その分の時間を他の業務に向けられる。
- ・移動時間をその他の時間に使えるため
- ・遠隔業務ができる分野であれば(放射線科や病理など)とても改善すると思います。
- ・遠方への移動や宿泊がなくなり、時間のロスが減るから
- ・家族がいる方に関しては、家族と仕事両方に時間が取れやすくなったと思う。
- ・家庭を理由に学会参加できない機会が減る
- ・学会の専門医更新の単位取得や最新の知見を学ぶことについて、時間・場所の自由度が増し、多様な医師に平等な機会が提供されるようになった。
- ・管理しやすくなるから
- ・効率が格段に上がると考えられるから
- ・効率の改善
- ・効率化する事で、少しでも時間をとれると思うから。
- ・行事への参加の敷居が低くなり、また家庭へ割く時間も増やせるため。
- ・在宅から参加できたり時間が節約できることで働きやすくなる可能性があると思います
- ・在宅での会議の参加なども可能になりその点はよい。
- ・仕事で疲弊することが減ればライフの方にも余力を向けられるのでは。
- ・使い次第ではある
- ・子どもの病気や休校などのような急な家庭の事情などで、対面講義ができなくなった時でも、休講にすることなく、遠隔に切り替えることで、学生も教員も双方に時間の無駄がなく、対応できるようになった。
- ・時間のかかった、data 整理や書類の入力などの時間が減らせることで、仕事を早く終わらせると思うから

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・時間の節約になる。
- ・時間を有効に使用できます
- ・自宅からの参加が増えたため
- ・自宅からも研修・会議に参加できる
- ・女性も在宅勤務や遠隔地の学会参加などが可能となるため
- ・場所を選ばないため。
- ・提供する方は最初は大変な業務と思うが、資料さえそろえば効率化につながるから。
- ・勉強や自己研鑽を自宅でもしやすくなるため
- ・漫然とした業務が減少するため。
- ・無駄が省ける可能性
- ・無駄な時間が減る。

**思わない

- ・ICT化とワークライフバランスとの間の直接的な関係はないと思う。
- ・ICT化は推進されているが、安全推進の名のもとに医師が確認したことをサインする紙の書類が増えている。確認だけの書類が安全に寄与するかわからないと思う。
- ・家での作業が増える
- ・家で仕事する
- ・改善がみこめる理由を知らない
- ・結局ヒトがやらなければならない仕事が多いから
- ・結局医師の負担減につながっているとは思えないから。
- ・仕事の量は減らないため
- ・仕事効率は上がるが、その分、業務量が増え、自由な時間がふえることはないと思います。
- ・本来ワークに含めるであろう家でのリモート仕事量は圧倒的にふえた。リモート作業は便利で効率的だがワークに含められていない。
- ・臨床業務は効率化が難しいため

**わからない

- ・どう変わるかまだピンとこない
- ・移動がないが、参加することによって変わらないため。
- ・一部は改善すると思う
- ・具体的にわからない
- ・効率化の一方で、職場の人間関係の複雑さや業務達成の圧力などは変わらないかもしれない。
- ・仕事に参加しやすくなるとプライベートの時間が減るため
- ・出張でない、というよりは、家にいる、というだけでも家族にとって不満は低いようです。
- ・進んでいない
- ・多少良くなるかもしれないが大きな変化には至らないのではないかと思います

講師・回答しない

**思う

- ・移動時間が減るから
- ・無駄な挨拶会議が減った

**わからない

- ・自宅でカルテの事務作業ができれば、家にいる時間は増えると思うが、業務時間そのものは減らないと思う。

助教・男性

**思う

- ・「教育」「研究」「診療」の総和の負荷が軽減することで改善すると思う。
- ・予算も上の意識も全く乏しい。
- ・医師も自宅でオンライン診療などができるようになれば改善すると思う。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ ICT ソフトや運用などの考え方が変化すれば改善するかもしれない
- ・ ICT の利点と思う
- ・ ICT の利用に自分の時間が取られなければ改善すると思う。
- ・ ICT はさらに推進すべきであるから。
- ・ ICT 化の中で不要な仕事をそもそもなくそうとする業務の見直しは必須。あまりにも惰性で仕事をしている
- ・ ICT 化によって業務時間が短縮される部分があるという点で、ある程度はワークライフバランスの改善にも寄与するのではないかと考える。
- ・ ICT 化によって作業時間の短縮や効率アップが出来る
- ・ ICT 化により削減される移動時間、余白時間を有効に使えるようになるため
- ・ ICT 化を全員が貫徹できれば、雑務が減ることを実感したから
- ・ web 会議です
- ・ アナログな慣習による無駄が多いから
- ・ ある程度はスリム化、合理化されると思う。
- ・ ある程度は業務の効率化からワークライフバランスの改善に寄与すると思う。
- ・ いらぬ会議、学会などで出張する必要がなくなるから。
- ・ うまく使うことで業務を効率化できバランスが改善すると思います。
- ・ うまく使うことで時間効率は上がると思う
- ・ オンラインでのやり取りや入力フォームなどの活用が進んで、対面や紙媒体などアナログとの変換作業が省かれる。移動時間や拘束時間が減ったので、時間的な余裕ができる。
- ・ オンラインで聞きながら仕事も出来ると思う。自宅にいても出来る。
- ・ オンラインの学会・研究会の実地で改善していると感じられるため
- ・ オンライン教育、オンライン診療が増えることで、効率化が進むため。
- ・ カンファレンスや学会の参加もある程度自由に場所を選べるから。
- ・ システム化がうまくいけば、質が向上すると思うから
- ・ そうしないと医者が集まらないと思う
- ・ そのように思うが実感は今のところなし。
- ・ それぞれに必要なとする時間が低下する
- ・ ただし、無理な制限などかけなければ
- ・ データを活用して働きかけを行えば改善が期待できる。
- ・ どこでも診療や、カンファレンスに参加可能になる。
- ・ マルチタスク能力の高い人なら全てを並行して進められるようになり、日常生活に割ける時間も増えると考える。
- ・ メールや電話でのやり取りよりもハードルが低く感じるため。
- ・ より効率的になればプライベートの時間が増えるから
- ・ 移動が少なくなると、有効に時間を使える場合がある。
- ・ 移動が必要ないため自宅からでも学会などに参加できる。
- ・ 移動の時間が減ったことで時間を有効に使えるようになった
- ・ 移動時間が減る、またはながら作業が出来るから
- ・ 移動時間が減ることなどから明らかに有用
- ・ 移動時間や拘束時間が減る
- ・ 一部在宅で可能な業務はシフトできる
- ・ 院内の会議を自宅から参加できるため。
- ・ 遠隔での診療録や検査記録の閲覧が可能となり、現場スタッフへ指示することができるようになる。
- ・ 遠隔地でも職場外で診療情報を確認できれば病院での勤務時間は減ると思われる。
- ・ 遠方移動の頻度が減るので
- ・ 家にいながら多くの業務ができるようになれば自分の家族と一緒にいれる時間が増えるため。
- ・ 家庭からでも参加できるため
- ・ 家庭でも仕事が可能。しかし、それは、時にデメリットになる。
- ・ 会議、学会参加にはメリット大
- ・ 会議の時間に何でもできる
- ・ 会議や講義を自宅や外出先で行える。
- ・ 会場への移動時間削減

45. ICT化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・改善させるような改革にしなければ意味がない。
- ・改善することを期待するのみです。
- ・改善する可能性はあると思います。
- ・学会参加の移動時間が削減できる程度。
- ・楽に情報が入手できるようになった
- ・希望
- ・期待
- ・記述業務が減るため
- ・休日に遠方で開催される学会に家で家事をしながらでも参加可能なので多少は改善すると思います。
- ・協力し合うようになるから。
- ・業務が減るため
- ・業務が効率化する可能性があるから。
- ・業務の効率化が勤務時間短縮につながる
- ・業務の効率化できれば時間短縮になると期待できる
- ・業務の効率化は可能。
- ・業務効率化により、これまで以上に自由時間確保が期待できるため
- ・業務効率化は自由に使える時間を増やすから。
- ・業務時間が短縮することにより、趣味などに使用できる時間が増えると思います。
- ・業務知識の共有が簡単に成った、
- ・業務量は多少減ると思う。
- ・勤務時間の短縮になるため
- ・勤務時間削減のため。
- ・現地へ出張するための移動時間は軽減されるため。
- ・効率が改善し不要な時間は減ると思う
- ・効率が上がる
- ・効率よくできれば、それを指導してくださる専門家がいれば
- ・効率化が進むと思われるから
- ・効率化すれば仕事量は減るから
- ・効率化だけでいいのか？
- ・効率化により従事時間削減につながる
- ・効率的な時間の使い方できるようになると考える。
- ・効率的な方法が期待できる。
- ・今後必要性が高まる。
- ・在宅でできる仕事が増える
- ・在宅での会議参加など
- ・在宅業務も可能となるため。
- ・作業効率化
- ・雑務の量は減るだろうと思う。
- ・参加が容易になるため
- ・仕事効率が良くなれば
- ・職場を選ばなくなる。
- ・使い方次第だが、場所の制約が少なくなったため、移動中や自宅で対応可能なものが増え、自宅で過ごせる時間が増える可能性がある。
- ・思うがそれだけではない
- ・紙媒体での作業が減り、自動化・簡略化できることが増えた。ただし、不慣れな方への教育については大いに配慮する必要がある、どんなに優れたシステムでも、着手する前から抵抗される場合も多々ある。
- ・時間ができる
- ・時間が取れるようになるから。
- ・時間に限りが出てきたため。
- ・時間的余裕が出来る。連絡や情報共有がしやすくなる。
- ・自宅からでも学会や会議に出席ができるから(そのぶん病院に報告のない時間外労働、自己研鑽は増えている)。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ 自宅からも会議に参加できるため
- ・ 自宅から会議にできるなど、移動時間の大幅な短縮
- ・ 自宅での仕事も可能となるため
- ・ 自宅を空けなくてはならない機会が減少すると思われる為
- ・ 自宅勤務などが可能
- ・ 自分に関しては変わらないが他業種では改善するかも
- ・ 実際に ICT 化進めば改善する可能性は秘めている。
- ・ 重要度の低い学会や会議にわざわざ行く時間を節約できるようになった。
- ・ 出勤する必要がある場合はリモートワークでよいと思う
- ・ 出張が減って自宅時間が増えるため
- ・ 出張が減る分、家庭に使える時間は増える。子育て中でも学会などに参加しやすくなる。
- ・ 出張の移動や宿泊に費やしていた時間が節約できるので、他の事に振り分けることが出来る。
- ・ 交通時間がもったいない。
- ・ 情報の収集、共有などにおいて以前に比べて効率が良くなったため
- ・ 情報共有がスムーズになるから。
- ・ 色々便利
- ・ 診療・研究・教育に関連するデスクワークや会議などのリモートワークを『自己研鑽』として勤務に含めないことを美学とするような管理者が多い職場環境でなければ、限られた時間内での仕事の効率化が進み、ワークライフバランスは改善すると考える。
- ・ 診療や教育に広げられることで改善が期待される。いろいろな制約があるとは思いますが。
- ・ 人の無駄な作業が減るため
- ・ 多くの機会に触れることができるから。
- ・ 多少は改善すると思うため
- ・ 対面を必ずしも必要としない場合のオンライン会議の普及
- ・ 待機時間が減るように思います
- ・ 退職後に自宅からオンラインで参加できる業務が増え、育児介護と両立しやすくなる
- ・ 長距離移動が減った
- ・ 適切に行われれば非効率業務の効率化が図れるため
- ・ 能動的学習や討論において現地参加に勝るものはないが、オンライン参加で出張の移動時間が省けるのはメリットだから。
- ・ 泊りがけで出張する機会が減るので、家族の犠牲が少し緩和されそうです。
- ・ 不要なアナログ業務が短縮される。
- ・ 不要な業務の短縮に寄与
- ・ 不要な出勤が減り、休むことへの抵抗が減る
- ・ 不要な出勤が必要なくなるため
- ・ 分かっている人が推進すれば、分からない人は現状維持ばかりで、「いま」が既にダメなことを認識していない(のに管理者していたりする)。
- ・ 便利は確実に向上した
- ・ 北海道は広く、移動時間の削減が期待されるため。
- ・ 無意味な時間の短縮
- ・ 無駄が少ないので業務が削減できる。
- ・ 無駄な移動が減る。紙作業が減る。
- ・ 無駄な移動時間などが無い。
- ・ 無駄な移動時間や現地参加に費やす時間を削減できるため、浮いた時間で他の業務ができる可能性がある。
- ・ 無駄な紙や会議は減らせるから。
- ・ 無駄な時間を減らす視点に立てる。
- ・ 無駄な書類作業が減れば寄与する。
- ・ 利用の仕方次第
- ・ 例えば、帰宅後にオンラインで患者の状態を確認できるようになれば、検査結果などを病院で無駄に待つ必要がなくなるため
- ・ 例えば家で子育てしながら出来る業務も増える。
- ・ 労働時間削減にはなる
- ・ 労力の省エネが推進できる。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

**思わない

- ・「つながらない権利」が浸透しなければ、自宅にいても出張先でもすぐに診察できるようになってしまうから。
- ・ ICT で行う事には限界があり、実際の治療検査手技はする必要があるのでは
- ・ ICT によって常に仕事に束縛される。
- ・ ICT に適さない業務が大半を占める。
- ・ ICT を利用できるといっても、利用できるツールを与えてくれるわけではないから。
- ・ ICT 化が効率化に寄与していないと思うから
- ・ ICT 化が進んでいない。
- ・ ICT 化とワークライフバランスは、ほぼ無関係。
- ・ ICT 化によって、移動しなくても良くなるという利点はあるが、逆に自宅からでも多くの web 会議に参加しなくてはならず、業務時間が増えたり、仕事と家庭の境界が曖昧になってしまう。
- ・ ICT 化よりも個人の認識の方が寄与するのではないか。
- ・ ICT 推進により便利な反面、便利さについていくのに努力が必要。努力に使う時間や負担もあり、改善はしない。
- ・ WEB での会議やカンファレンスはどこでも参加できるため、余計に縛りがきつくなった。休みであっても、病気であっても、参加できてしまう。
- ・ あくまで個人の意見であるが、そもそも ICT を活用しやすい診療科と活用が難しい診療科があると思っている。活用しやすい診療科にとってはワークライフバランスは良くなるだろうし、活用しにくい科にとってはさほど影響を与えないだろうと思う。
- ・ うまく使えず、余計な手間ばかりの予想
- ・ オンラインになっても変わってないので
- ・ かえって業務が増えた
- ・ かかる時間は変わらないので
- ・ それぞれの心がけ次第で変わるから
- ・ テクノロジーの進歩によって効率的になるだけでは、精神的にも時間的にも余裕は生まれないことは歴史が証明しているから。すなわち、競争社会である限り、効率性をあげて生まれた時間は、余暇に使うよりも多くの仕事をこなすために使われるようになるため。
- ・ デバイス使用に時間がかかる
- ・ ネット能力に個人差が大きい
- ・ ビジョンが見えない。
- ・ やることに限りがない。どこまでも仕事がついてくる。
- ・ リモートワークが認められないから。認められれば改善する余地はある。
- ・ ワークライフバランスと結びつけることはできない。
- ・ ワークライフバランスに対する終着点は、個々人での印象でしかないので、変化はするが改善はないと思う。
- ・ 医師にそんなもの不要だと思っているので、それより地域格差の方が深刻
- ・ 医師の仕事は、現場に立って、自分の目で見て、感じて、なんぼである。特に若い世代が、頭でっかちの知識だけの医師になってしまい、ワークライフバランスのライフを勝手に優先させる理由付けを与えてしまい、職務に関して、責任感が欠如している医師を頻繁に見かける。
- ・ 家でも仕事をするようになるため
- ・ 会議などへの参加によって休日の時間が削られることは変わりがないため。
- ・ 学会参加などで削減された時間は全体の時間から見れば僅かの時間だから
- ・ 関連性が分からない
- ・ 機体はしているが、現象変化はないため、
- ・ 帰宅後も仕事を続けることになった。
- ・ 逆に web 会議の数がかなり増えて、週末の時間をとられる。
- ・ 業務量が減らなければ、何も変わらない。
- ・ 結局うまくいっていない。今後に期待。
- ・ 結局すべて集中できずに中途半端になる
- ・ 結局は人だから。
- ・ 結局個人の負担になっている仕組み自体は変わらない。現場に丸投げなのは日本の戦前からの体質で全く改善がみられない。
- ・ 結局誰かに負荷がかかるだけで、質も落ちていると思う
- ・ 元々の業務量が多いため。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ 個人の意識の問題
- ・ 個人情報への壁
- ・ 個人情報保護から事業所イントラ内でしか使えないプログラムがあり、結果労働中に行わざるをえないため
- ・ 効率化で、業務量を増やそうとするだろうから
- ・ 国際競争なので、ICT 化しても、働く人はより働くようになるだけだと思います。
- ・ 根本的な解決にならない
- ・ 雑多な PDF の処理に膨大なストレス
- ・ 雑務の内容がシフトするだけ
- ・ 参加はしやすくなったが、参加すべき会議が増えたように思う
- ・ 仕事の量は変わらないため、今まで以上に過酷になっている
- ・ 仕事を際限なくかかえているから
- ・ 仕事量が減らないから
- ・ 時間外の講演会など多いため
- ・ 自宅での仕事が増えるだけ
- ・ 自宅などどこからでも会議などができるため、業務と家庭の時間との境界がなくなるため
- ・ 自動入力などかかる手間の効率化が必要
- ・ 自由時間にまで業務が侵食してくる。
- ・ 手術中の拘束時間が変わらないから。
- ・ 十分な ICT 化がなされていないため。
- ・ 新たな仕事が増えている。
- ・ 診療で一番大事なのは、患者さんと直接話をするのが重要だと思うから。
- ・ 生活まで改善できるものではない。
- ・ 積み残しの仕事を家でできるようになるため
- ・ 他にも仕事が多いから
- ・ 他の業務をするので
- ・ 待機、当直回数、労働量が減るわけではないと思うため
- ・ 代替できる担当者の確保が無い状態では画餅でしかない。
- ・ 台湾や北欧並みに導入できれば改善できるが、現在の病院の予算では無理。そもそも IT スキルが低い医師が多い。
- ・ 大幅な時間短縮にはならない
- ・ 電子メールや携帯電話の普及で忙しくなったのと同じ
- ・ 働き方は変わらないから
- ・ 働き方改革、共同参画の問題点は、金銭と人員の問題で、ICT は直接関係ない
- ・ 特に多くを占める診療においては ICT 化によって改善するとは考えにくいです。
- ・ 命を預かる仕事だから ICT に限界があると思うから
- ・ 余計な仕事が増えた印象です。
- ・ 要求や業務量がその分増えるため。

**わからない

- ・ ICT がよくわからない。
- ・ ICT によって生活が振り回されると思います
- ・ ICT 化とは？具体的に何をさしているのでしょうか。
- ・ ICT 化とはなんですか。
- ・ ICT 化により個々の業務は効率化されても、ICT 化されていなかったことで実施できなかった業務が実施できるようになり、業務が増える結果も起こりうる
- ・ ICT 化の手法による。ICT 化の為に手間が増えては本末転倒。何のための ICT 化かが常に問われる必要がある。
- ・ ICT 化の推進によって勤務時間が減少しているわけではないから。
- ・ ICT 化を実感していないため。
- ・ ICT 化推進の実感がない。
- ・ web 併用の弊害が現段階では不透明な点もあるため
- ・ いいこともあるけれど、悪いこともある。
- ・ イメージがわからない

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ インターネットを用いた遠隔診療が身近になれば通勤時間短縮にはなる。
- ・ オンラインミーティングが乱発されて参加しなくてはならない物の数が多くなる傾向あり。移動時間が省かれることはメリット。
- ・ そこまで影響するかわからない。
- ・ ちょっと予想がつきません。
- ・ どこからでも参加できるがゆえに、夜間までオンラインで仕事をするケースもあり、使い方次第かと思います。
- ・ どこでも仕事ができるため、かえって業務時間が長くなる恐れもある。
- ・ どこにいても会議やミーティングができるようになった分、そういったオンライン会議等の設定時間が遅くなる傾向にあり、実質的な拘束時間が変わらないか長くなる可能性がある。
- ・ どのように活用されていくのか想像ができないため
- ・ どの部分が効率化につながるかがよくわからない
- ・ プライベートとの区別がつきにくい。
- ・ もうすでに推進されており、ライフワークは変化している状況で今後どうなるかはわからない。
- ・ やってみたいとわからない
- ・ 家庭事情などの他の要因が関与するから
- ・ 改善すると期待したいが、実際に改善するかわからないため。
- ・ 改善すると、改悪になる人と、両方あり得る
- ・ 改善する側面と悪化する側面があるため、単純には回答できませんでした。
- ・ 簡便になることはいい事だと考えます。あと専門性を持つ業種へのしかるべき対価が払われることを望みます。
- ・ 業務の絶対量が変わらないなら、効率化が進みワークライフバランスは改善されるだろう。効率化された結果業務の絶対量が増えるのなら、ワークライフバランスはほとんど変わらないだろう。
- ・ 具体的な施策がわからない。
- ・ 具体的に ICT 化で何をするのが分からないので答えられません
- ・ 具体的に何がどうなるかが分からないので、如何様にも感じようがない
- ・ 経験上、何かを改善したら、その分新たな仕事が増えるだけのことが多い。
- ・ 結局は医療業務の総量が変わらなければ、「どこですのか」の問題になるため。総量を減らすには、携わる医師、医療者の増加が顕著とならなければならないと考える。
- ・ 現在のところ改善した印象はないが、よりそのような機会増えることにより改善してほしいと期待する
- ・ 現時点ではうまくいっていない
- ・ 現実味がないため分かりません。
- ・ 現場で診療が必要だから
- ・ 現状では、改善するという実感が無い
- ・ 現状では利用できる人とできない人で格差がつくと思うため
- ・ 個人ないし組織が ICT 化になれるまでは、時間を要すると思うため
- ・ 効率化しても、その分の時間とエネルギーを別の仕事に充てることになる。
- ・ 今のところ実感はないから
- ・ 今後対面形式がどれだけ復活するか不明瞭なため、
- ・ 根本的に人員不足のところは一生人員不足
- ・ 実臨床においては、ICT では限界があるが、研究や教育ではよい面が多いと思うため。使い方次第。
- ・ 手間は変わらない
- ・ 出張が減る分は家庭に時間を割ける一方、自宅でもオンライン会議が出来るのはむしろ家族の評判が悪い。
- ・ 身近でない
- ・ 人員の削減による雇用問題や給料への影響が出てくる可能性があるため。
- ・ 早く迅速に情報を伝えることができる反面、結果的に対面による処理を要する業務内容が多く、業務内容が減ることにはならないと予想されるため。
- ・ 相当進んでいかないと変わらないと思う
- ・ 中長期的な実績への影響はまだ不明のため
- ・ 入れるシステムによる。事後検証が圧倒的に足らないので、そこを何とかしないと何やってもダメでしょう。システムは入れることしか考えない無責任な管理者が多すぎる。
- ・ 利点欠点あり。移行のストレスやリスク、皆が慣れるまでは結局大変ではないかと思う。
- ・ 患者をみるのに結局しんさつできないと無理。自宅からカルテを閲覧できたり、自宅から処方や検査オーダーができる、あるいは自宅でカルテ閲覧をして臨床研究ができれば改善の余地あり。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

助教・女性

**思う

- ・ ICT 化として使い良いツールが導入され業務効率化にきちんと結びつけば改善すると思う。ただ、これまでに電子ツールの導入が効率化に結びついていないのではと感じる局面もあった。
- ・ ICT 化を用いることで時間の削減と効率化の上昇が見られるため。
- ・ アナログ作業が少なくなる
- ・ いずれは改善していくと予想するが時間がかかると思う
- ・ オンラインで可能なものに関しては、現地への移動がない分、参加しやすくなるから
- ・ オンライン参加が可能になり、どこからでも会議に参加できるため、時間の拘束が減少した
- ・ セキュリティ面が解決すれば、自宅からカンファレンスや学会等に参加できる。
- ・ フレキシブルに対応可能
- ・ リモートワークができ、移動時間などを他のことに充てられる
- ・ リモートワーク可能な職種は自分のスタイルに合わせた勤務時間計画が可能となるかもしれない
- ・ ワークの雑務が減り、帰宅時間がはやくなる。休日勤務が減る
- ・ 移動が不要になることで通勤時間など短縮できるメリット
- ・ 移動に費やす時間が節約できるため
- ・ 移動や渋滞を考慮した時間配分などが不要となり、隙間時間が減少することでより効率の良い業務になると考えます。養育や介護が必要な家族の体調不良などに、休まなければならない業務を最小限にできることは非常に大きいと思います。
- ・ 移動時間が短縮できる ただオンラインでの聴講のほうが、頭で理解できる情報量が少ない気がする。
- ・ 移動時間の減少、隙間時間の活用ができる
- ・ 移動時間の削減、家族と過ごせる時間が増えた、体力が温存できる、自分がいない間の家事育児を他人に依頼する必要がなくなった
- ・ 移動時間の削減、開催場所にいなくても参加できるため
- ・ 移動時間の短縮にはなると思う。
- ・ 医師に押し付けられてある雑務が減ると思うから
- ・ 一度システムが構築されればより効率化されるため
- ・ 遠隔での指示や情報共有など自宅にしながら対応できることが増える可能性がある
- ・ 家からでも講義ができそう。
- ・ 家でカンファレンスに出られる
- ・ 家にしながら会議にでたりが可能であるため
- ・ 家に仕事を持ち帰って出来る
- ・ 改善点は多数あると思うので。
- ・ 学会が現地にいかなくても参加できるのは非常にメリットがあった
- ・ 学会に web で参加可能であると、子供を家で見ながら参加可能であり、子供を預けるための費用も不要となり、仕事のための勉強も家事も同時に行うことが可能となる。
- ・ 学会参加のために週末が全てつぶれるということは少なくなるのではないかと。子育て中の女性には朗報だと思います。
- ・ 帰宅時間が少しでも早められるとワークライフバランスの改善は期待できると思う。
- ・ 業種や仕事の内容によってはテレワークできることもあるのでは、と思う
- ・ 業務が効率的に進むと思うから。
- ・ 業務のアウトソーシングにつながる
- ・ 効率よく仕事を進めることもできる可能性が考えられるため。
- ・ 効率を上げることができると考えられる。
- ・ 効率化が進んで雑務が減れば改善すると思う
- ・ 効率化と選択肢の増加が得られる
- ・ 効率的に時間を使えるため。
- ・ 今までの無駄な時間を有効活用できるから。
- ・ 在宅でできる作業が増え時短になる
- ・ 在宅業務が可能となることで、家事との両立が容易になると思われる
- ・ 雑務が減ることで勤務時間の短縮を得られる
- ・ 仕事が分担できるため

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・子育てをしながらでも自宅などから参加できるため。
- ・時間の管理が主体的にできる。
- ・時間の効率化も図れる
- ・時間を効率的に使えることで帰宅時間を早められる可能性があるから
- ・時間を短縮できるものできないもののメリハリが付けられる。意識が変わる。
- ・時間を有効に使えるから
- ・自宅からでも行えるようになれば改善すると思う。
- ・自宅からのカンファレンスやミーティングが可能のため、帰宅時間を早めることができる
- ・自宅からの会議等参加は無駄に職場に拘束される時間を減らすことができる。子育て中などの人も会議参加や知識のアップデートがしやすい。
- ・自宅でオンライン診療などできる仕事がありそう。
- ・自宅でも研究業務がしやすくなる。
- ・自宅で子供みながらでも会議に参加できるから
- ・自宅にいながら参加可能なため
- ・自分で保育しながら多くの学会に参加することが出来るため、子供のストレス・負担が少ないと思うから。
- ・自分の時間が増えるから
- ・手間暇部分の短縮可能となるだろうから
- ・授業の準備を自宅でできる
- ・従来の形式をそのまま移行すれば手間は減ると思う。余計な評価項目や承認などを増やすとアクセスや操作が勘弁でも結局取られる時間が増える。
- ・将来的にはそうあってほしい。
- ・小さい子供がいても家から学会に参加できる。
- ・場所を選ばないから。
- ・診療科によると思うが、オンライン診療などできる場合は自分の裁量で自由時間を作り出すことが可能だから。
- ・診療外の時間が減る
- ・生活全体の効率が良くなる
- ・全ての作業の効率化。
- ・通勤時間の削減
- ・病院以外での作業ができる。調整しやすい。
- ・不要な時間が減るから
- ・無駄な業務が減り、働きやすくなるから。
- ・無駄な時間が減り、仕事以外の時間が増やせるため。
- ・様々なことがスムーズに進むから
- ・例えば診療カンファレンスにも遠隔で参加できる、さらなる整備は必要。

**思わない

- ・ICT を導入しても結局リアルタイムの会議参加を求める状況である限り、子育てと両立はできない。無駄な会議が多すぎると思います。
- ・ICT 化とは関係ない
- ・あまり恩恵を感じない
- ・すべて ICT 化できるわけではないから
- ・家にいる間も講演会や学会の視聴・参加が可能となったことで ON/OFF の境界がつけにくくなり、夜遅い講演会も増加したと感ずることから
- ・会議は増えた
- ・外注できなければ、業務の総量は減らない
- ・業務が楽になっても急患が来る数はむしろコロナで増えているので、変わらない。
- ・結局皆が状況を理解しないと、メリットを共有できない
- ・減ったところに別の仕事が入っている気がするので、時間拘束は変わっていません。
- ・現場の診療業務量に変化はないから。
- ・現状の仕事内容を考えると増えてしまうと感ずる。
- ・効率よく仕事をすればするほど仕事は増えるので。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・効率化されてもそれを上回る仕事量だから
- ・高齢者を見ることが多いのに、自分たちだけが ICT 化しても、高齢者やその家族がついてこれていない。制度への不満、リソースを活用できないことへの不満で IC 時に揉めることで IC 記録などさまざまな仕事が増える。
- ・事務方からの雑用が本院に比べて極端に増えている。他付属病院では受付事務がおこなっている事務的内容や月報なども歯科医師、歯科衛生士がになっているため、診察以外の業務の急増している。
- ・時間外に自宅で、オンラインで仕事をするようになるなら、状況は変わらないから。
- ・自宅で夜に会議をすることが増え、また、小さい子どもがいる人に配慮して、子どもが寝た 21 時 30 分以降での会議が増えているため。
- ・新しい仕事が次々出てくる
- ・診療業務は直接行わないとできないことが多い。会議や学会に、むしろどこからでも参加できるので、仕事時間は増える可能性がある。家事や育児・介護は ICT 化できない部分も多い。
- ・早くなった分だけどんどん仕事が増える
- ・他の業務をする時間が増えるだけで、ワークライフバランスは改善しないと考える。
- ・長期労働が却ってしやすくなってしまふから

**わからない

- ・ICT 化だけでは難しいと思います。
- ・ICT 化によって具体的にどんなメリットデメリットがあるのかを知らないから
- ・ICT 化により浮いた時間をワークライフバランスをとるために使っているわけではないから。その分診療や教育の質を上げる時間に補填しているだけだから。
- ・ICT 化は業務を効率化する分、際限なく隙間時間を奪う、勤務時間外の時間すら奪うという負の側面もある。勤務無時間外の医局主催の研究会に全員参加を強要するなどは逆にワークライフバランスを悪化させるだけなので、規制すべきだと思う。
- ・ICT 化は業務軽減につながる可能性はあるが、ワークライフバランスは子育て環境など社会が総合的に関わっており、ICT 化だけでは改善しないと思うため。
- ・イメージがわきにくいので回答しづらい
- ・オンとオフの切り替えが難しい
- ・オンラインを利用して移動時間など減った分を生活時間に回すかどうかは個人次第だから
- ・この質問用紙に関しても、エラーが出て何回も同じ質問にクリックをしなきゃいけないかったり、煩雑でやりづらい。電子が全て良いわけではない。私は極力取り入れたくない。
- ・コミュニケーションがとりづらい
- ・コメディカルがどの程度医師の業務を分担出来るかによると思う。
- ・サービスの向上や生産性は使い方にもよると思うので。その現場に即した使い方ができているかの検証は必要かと思います。
- ・することや覚えるが増えるという不安
- ・どう ICT を利用するか次第？
- ・どこでも業務ができるため、個人の自由時間は失われる
- ・まだ恩恵を受けていないから
- ・むしろ家にいても仕事ができるため、サービス残業が増える可能性がある
- ・メリットとデメリットどちらが大きいかわからないため。
- ・ワークライフバランスへの効果はわからない
- ・ワークライフバランスの改善を目的とした推進化でなければ、結局は根本的な改善に至らないから。
- ・ワークライフバランスは、そこまで変わらないような気がします。
- ・ワークライフバランスを改善する具体的な ICT 活用の例が思いつきません。
- ・移動時間は減ったが、その分仕事が増えるから。家庭で会議に参加できるが、仕事量が減る訳では無いから。家庭での学習機会は増えるが、集中できる時間は減るから。
- ・一部は改善すると思う。外科系はまだ変わらないと思う。
- ・遠隔でもできるようになることでメリットデメリットがありそうです
- ・科によっては在宅勤務が可能になるかも
- ・改善する部分もあるが、自宅からも会議参加やセミナー受講できるようになり、結局カウントされにくい【仕事時間】が増えたり、オンオフの切り替えが難しくなっている側面がある。
- ・逆に、いつでも繋がれるからこそ、時間かまわずメールなどが届いて仕事とプライベートの区別ができないこともあると思う。
- ・業務時間が短縮できればワークライフバランスの改善につながると思うが、直結するかはわからない。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ 具体的に何がかわるかわからないため
- ・ 結局家でも仕事をするのは増えている
- ・ 現状見通し不明
- ・ 言い切れません。
- ・ 個人の裁量が大きい
- ・ 効率化した分他の業務が増えると思います。
- ・ 在宅でも会議などに参加することができるようになる。一方でどこにいても参加できるようになり、プライベートとわけるのが難しくなる。
- ・ 仕事の量は減らない
- ・ 使いこなせるか疑問
- ・ 指示出しや管理、承認は人なので負担はある。秘書に近いリマインド機能が出来るとスケジュール管理が楽
- ・ 時間の効率化はあるが、自宅でオンラインでのカンファレンスや学会に参加することが増えたため
- ・ 時間外のオンラインミーティングが多すぎる。子育てしていると 19 時や 20 時にミーティングをされるのは非常に困る。勤務時間内にしてほしい。
- ・ 自宅からもインターネットで web 会議に参加できるでしょと言われると、退勤後も会議に参加せざるをえない状況となったりする可能性もあるため。
- ・ 自宅で、画像が見られたりすることは利点になるかもしれないが、束縛と言う意味では変わらない。
- ・ 前後の準備などは変わらないため。
- ・ 利用のしかた次第

助教・回答しない

**思う

- ・ 無駄な時間を省けるため

**思わない

- ・ 労働側のメリットはない

**わからない

- ・ 「ワークライフバランス」が何かわかりません。
- ・ 個人的にオンラインをほぼ使用しないため。
- ・ 日本人の社会システムに対する思い込みが変わらない限り難しい

医員・男性

**思う

- ・ ICT 化で、時間効率が良くなることは期待できる。
- ・ ICT 化によって大きく業務を改善することができると思う。
- ・ ICT 化によりいままでよりも効率よく業務をこなせるようになり、空いた時間を自分の時間に使うことができるのではないかと思うため。
- ・ ICT化により外部講師から遠隔から講義を受けることができるようになり、常勤の資料の作成などの負担が減らせると思います。
- ・ web 使用が増えたため
- ・ ウェブミーティングなどによる移動時間短縮
- ・ オプションが増えるため
- ・ オンデマンドの学会発表動画であれば隙間の時間で、聴講が可能であり拘束時間短縮されるため。
- ・ オンラインによる時短が可能
- ・ ちゃんと使えば改善する。
- ・ 移動が減ることでその時間を有効に使えるから
- ・ 移動の時間などが省略できるから。
- ・ 移動時間の削減により他に割ける時間が増加する
- ・ 移動時間の短縮や効率の良い時間の使い方ができるから
- ・ 一つ一つの業務にかかる時間が節約できるため
- ・ 院外から参加できることは機会を増やすこととなる。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・遠隔でできることが増えるかもしれない。
- ・遠隔で仕事ができるのならば改善するかもしれない(外科には思恵うすい)
- ・家庭からでも参加可能となる、現地に行かずに対応できるため
- ・会議、カンファレンスでのすし詰めでの 1 時間拘束などがなくなり柔軟になった
- ・各個人の勤務時間、形態、内容、勤務地や役職、さらに家族構成など院外の事情に合致する
- ・感染リスクを減らすことができる上に、効率よく業務を行えることで家事に割く時間を増やすことができると考える。
- ・規制が緩和されれば
- ・業務の効率化が図れるから。
- ・業務の効率化により他のことへ時間配分可能となるため
- ・業務短縮につながるため
- ・現場に行くという場が減り、土日にやらなければならないことも減ると思われるから
- ・効率化されるから。
- ・今までの物理的な移動などに費やした時間を他のことに割り当てられるから
- ・今後に期待しているため
- ・仕事の一部を任せられるから
- ・子育てしながら、学会参加することができる。(今まではこどもがいると学会参加が困難であった)
- ・子育てをしながらの参加などもできるようになる。
- ・時間短縮が可能であればそう思う。
- ・時間短縮の期待から。
- ・自宅からでも参加できる機会が増えるから。
- ・自宅での会議参加も可能であるため
- ・自由時間が確保しやすくなると考えるから。
- ・自由度が増えて、上手に活用する方法が普及すれば改善すると思う
- ・書類作成の時間短縮
- ・書類仕事が減る
- ・省時間になるため。また、自宅でも参加できることから、不必要に職場に残らなくてもよくなった。
- ・診療時間が短縮するため
- ・全体的に ICT 化が進めば、業務効率化が進むんでワークライフバランスが改善するのではと思いますが、中途半端に ICT 化されること(資料は電子化なのに、なぜか紙印刷して FAX など)が一番手間もかかって勿体ないと思います。
- ・他のことに費やす時間が確保できる。
- ・万能では無いが改善には寄与する 時間の確保が可能になるため
- ・無駄な書面での業務がなくなるため。

**思わない

- ・ICT の推進をしても診療業務の時間の削減には直接的に影響はしないものと思われるため。
- ・ICT 化で不正な時間外労働の申告などは減らせると思うが、それだけで時間外労働を減らせる訳ではないから。
- ・ICT 化は必要事項であって、目的ではないと思います。問いとして問題があり、ワークライフバランスを改善するために ICT 化の推進は必要だと思いますか ではないでしょうか
- ・いつでもどこでも出来るということはいつでも仕事を振られる可能性があると言うこと。
- ・オンラインにしても患者を実際に見ないと治療に結びつかず予後は良くなるらないため
- ・その分働けるようになるだけだから
- ・そもそも ICT 化が進まないため。
- ・そんなに多くは変わらない。家での作業が増えただけ
- ・どこかでやらないといけないものはやらないといけないから
- ・ワークライフバランスは効率性とは無関係に決まると思うから。
- ・院外にいても病棟業務ができてしまうと、オンオフが切り替わらなくなる。
- ・家での仕事は増えるかもしれません。
- ・学会の現地参加を強要されることがある。
- ・関係は直接ないと思う
- ・関連がよく分からない
- ・業務の総量は変わらない

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ 結局、どこにいても仕事ができちゃう。
- ・ 現在の ICT 化は効率化という面では電子カルテ化を超えるインパクトはない。
唯一希望を持っているのは、例えば自宅で発熱している子供を見るためにやむを得ず自宅待機している医師がオンライン診療で病院の患者を診療して良い制度にすればもっと人的資源の活用になるのになんで行わないのか疑問。小人数でも問診など含めてオンラインでできれば現場の医師の負担が減る。
同様に看護師も問診くらいならオンラインでできるんだからやらせろと思う。
- ・ 仕事漬けになるだけであると思う。
- ・ 仕事量が変わらないから
- ・ 事務作業に変化ないため
- ・ 人が足りてない。
- ・ 大して役に立っていないから
- ・ 中高年以上の世代の医師のデジタルリテラシーの低さゆえ普及があまり進まない気がするから。
- ・ 病院で勤務するということは、いずれにしても出勤する必要があるように思うので。
- ・ 不要な仕事も同時に増えている印象があるため。
- ・ 本人次第という面も大きい
- ・ 無い袖を ICT でどのように振るのか疑問。
- ・ 余計仕事でやるが増える。

**わからない

- ・ ICT がなにかわからない
- ・ ICT とワークバランスの関連がわかりません
- ・ ICT 化自体が目的になっており、業務軽減、情報公開・共有などの本来の目的から外れていることがある
- ・ web による会議や学界の参加は自宅での参加もあるが、その分プライベートとの差別化が現地参加を行った際よりも難しくなった。
- ・ あまり経験がないから。
- ・ まだわからないです
- ・ まだ推進した先のビジョンが見えないため。
- ・ 可能性はあると思うが、しなければいけない業務内容に大きく差がなければ変わらないかもしれない。
- ・ 業務そのものが ICT 化で変化するか分からないです。
- ・ 金融機関と異なり様々な状況により必要な対応が異なり、自動化が難しい
- ・ 効率はよくなるが、仕事量が増えればわからない。
- ・ 根本が変わらないと意味がない
- ・ 始めのうちはシステムがまだ洗練化されておらず逆に手間になる可能性がある
- ・ 詳しくわかりません。
- ・ 適切に ICT 化が進めばいいが、無駄な業務が増やされるだけな可能性もある
- ・ 電子カルテを自宅で閲覧できるシステムが普及すれば、週末に些細な情報の確認のためだけに病院へ足を運ぶ必要がなくなる。また、臨床研究のデータ取得も効率的に行えるようになるかと考える。しかし、現状は進んでいない。
- ・ 方法次第だと思う。
- ・ 労働時間入力が煩雑だと、逆に手間が増える気がします

医員・女性

**思う

- ・ カンファレンス等が病院外でも参加可能
- ・ だらだらと会議をしないから
- ・ より効率的なスケジュールが組みやすくなり、対面でなければこなせない業務や育児・介護時間に余裕が生まれると思うから。
- ・ 移動時間が減る。会議の後の雑談などで時間が伸びなくて良い。
- ・ 移動時間や時間の制約など無駄な時間の削減につながるため
- ・ 一つの業務にかかる時間が削減できそうだから。
- ・ 家庭でできる仕事が増えるから。
- ・ 家庭に費やす時間が増えると思うから。
- ・ 業務の効率化により、休暇なども取りやすい。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・業務の効率化や、自宅勤務(研究)も可能になり、家庭との両立はしやすくなった。
- ・業務の申し送りを削減できる。
- ・業務を行う時間や場所が縛られないことは、自分の時間を有効に使えることにつながると思う
- ・業務効率が上昇する可能性があるため
- ・業務時間の短縮が図れる部分がある
- ・現地への移動の時間が減る。
- ・効率的に短縮できる点はあると思います。
- ・在宅ワークができる。
- ・参加場所を問わず、移動時間の短縮になる
- ・産休育休介護休中でも在宅ワークで業務が出来ると常勤の負担も減り、休んだ人の罪悪感も減ります。オンラインで院内のカンファ等に参加できれば休んだ人のキャリアロスも減らせると思います。
- ・子供や親の介護があれば、遠方への学会出席は難しいため
- ・事務作業が減ればその分時間が取れるから
- ・時間が大きく節約できる
- ・時間を有意義に使える
- ・自宅からの受講など効率的になる
- ・自宅でカルテ業務ができるようになれば
- ・自宅でもスキルのキープができやすくなるから
- ・自宅でもできる研鑽が増える
- ・自宅で育児、家事をしながら学会など参加できる
- ・自宅などからでの参加が可能になったため
- ・自宅に居ながらにして学会参加、など場所を選ばずにできるため
- ・自由が効くと思うから
- ・上手く利用すれば業務を効率化することができ、無駄な業務を減らせると思うから
- ・都合を合わせやすい
- ・無駄な移動時間が無くなった
- ・無駄な作業(手書き業務、不必要な会議等)に費やす時間が減ると思うから。

**思わない

- ・オンライン会議を自宅からでも参加する必要が増えたため
- ・ワークが自宅でも可能となり、自宅で結局業務を行っているから。結局、女性の仕事が増えると思う。
- ・ワークとライフの線引きが甘くなると思う。
- ・医療は完全オンラインで結局成り立たないので、限界がある。時代の流れについていけない医療従事者・医療機関も多数でてくる。
- ・活用の仕方次第かとおもう
- ・関係ないと思います。
- ・結局は空いた時間にはほかの業務をすることになると思う
- ・効率化により、やる事と締め切りが増える
- ・仕事量は変わらないから
- ・時間の効率は良くなるが、時間外の会議が多い。
- ・実感がない
- ・余計な入力が増えるだけ

**わからない

- ・ICT 化がわからない
- ・ICT 化と、ワークライフバランスがむすびつくのかは疑問
- ・ICT 進化で可視化することで逆に悪化する可能性もあると思うから。
- ・Web 会議が発達し、どこからでも参加できるようになったのはよい点だが、どこでも参加できてしまうのは逆に自宅でも仕事できてしまうのは不便だと思うこともある。
- ・アナログの方が業務が早いことがあるから。
- ・イメージができず、わからないから。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ どのような ICT 化があるのか知らないから。
- ・ なんでもコピペする外科医が多く、確認事項が増えている面もある
- ・ まだそこまでの時短にはなっていない
- ・ まだ実感していないため。
- ・ むしろ遠隔で仕事ができると家でも病院業務をやるようになってしまい(もちろん勤務時間にはカウントされず)、結果的に労働時間が増える可能性もあると思う
- ・ もっと上手く機能するようになるのかわからないから
- ・ やって見ないとわからない
- ・ 各病院でシステムが異なると、結局病院異動のたびにシステムに慣れるまでの時間がかかる
- ・ 個人によると思う
- ・ 効率化出来ればいいが、出来ないとむしろ負担増
- ・ 仕事できる場が増えることでのデメリットもあると思うから。
- ・ 情報を得られる機会は増えるが、かえって休日や夜、時間が長く拘束される場合もあるため。オンラインとはいえ、参加できないときはできないといえる雰囲気も大事だと思います。
- ・ 水面下での時間外労働は増える可能性があると思うため
- ・ 未就学児がいると、児が就寝するまで在宅でのオンライン参加は結局困難だから。オンライン参加できることで勤務に認定されないワークが増える人もいると思うから。

医員・回答しない

**思わない

- ・ ICT 化によって得られた変化が、必ずしもワークからライフへの時間のシフトにつながるとは言えないから。

専攻医・男性

**思う

- ・ アナログでやる必要がないことが削減できる
- ・ ある程度は診療の時間短縮につながると考えるから
- ・ オンラインでどこでも受講でき、時間的余裕ができるため
- ・ このまま進めていけば良くなると思われるが、結局組織運営の中核にいる年代の方が ICT をどれだけ受け入れられるかだと思う。
- ・ その場、その時間にしなくてもよい。
- ・ より単純化され効率化されれば改善されるため
- ・ 移動時間が減り、家事や育児に割ける時間が増えるため
- ・ 医師以外でもできる仕事に関して、タスクシフティングを推進できると思う。
- ・ 期待している
- ・ 業務が効率化すればより有効な時間の活用ができると思う。
- ・ 業務の改善が期待できるため。
- ・ 業務時間短縮につながる
- ・ 個々のニーズに沿うようになった
- ・ 効率よくなったと思う
- ・ 効率化で作業時間の短縮に繋がると思うから
- ・ 効率化に寄与するから。
- ・ 効率生産性があがる。
- ・ 作業効率化による時間確保のため
- ・ 仕事の効率が上がるため
- ・ 時間短縮になる
- ・ 時短になると考えます。
- ・ 場所を問わないため
- ・ 他人に合わせる無駄な時間が減るから
- ・ 多様化する勤務形態にうまく対応できると思う
- ・ 導入の手間を超えればよいと思う
- ・ 特に時間の節約が可能だろうから。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ 不要な業務時間を減らすことができるようであれば改善すると思う。
- ・ 無駄な作業をしなくて済むから
- ・ 無駄な時間を減らせる

**思わない

- ・ 業務内容そのものは変わらないと考えます。
- ・ 結局そのほかの業務を代償的に負担させられるのではないかと。
- ・ 行うべき業務は一緒のため
- ・ 大学病院では看護師がするべき仕事も医者がしておりそもそも業務が多すぎるので、ICT化で多少楽になっても業務過多の状態は変わらない
- ・ 電子カルテは進化していない

**わからない

- ・ ICT についてわかってないから。
- ・ IT 化の推進は、生産性を如何に向上させるかであって、さらに ICT 化はこれまで想像もしていなかったイノベーションを目の前のスマホやパソコンから作り出せることにある。しかし、どうであろうか。今の日本社会にこの ICT 化を進める覚悟はあるのか。維新の気概をもって、すべてを ICT 化させるくらいの日本型 ICT 国家モデルを構築するほどの社会的覚悟が欲しい。
- ・ これからどこまで進むかによるから
- ・ まだ実際に恩恵を感じたことがないから
- ・ やって見ないとわからないから
- ・ 改善が感じられないため
- ・ 業務分担の方がより重要と考える
- ・ 仕事量自体にあまり変化がないから。
- ・ 時と場合によります。
- ・ 実際に経験がなくわからないから。
- ・ 生活上変化は感じてない。
- ・ 部分的には改善すると思うが、新たな働き方や問題が出てくると思うため、総合的にどうなるかはわからない。
- ・ 本質的な業務量に変化がないから

専攻医・女性

**思う

- ・ オンラインでできることが増える分、仕事の効率が上がると思うから。
- ・ オンラインベースでの業務のほうが、即時性があり、やり取りもスムーズにできている。
- ・ これまでよりもプライベートの時間を多く確保できるようになったからです。
- ・ 移動という無駄な時間を削減できた
- ・ 育児をしている面からは学会や講演会のウェブ化は面倒を見ながら家で聴けるのでありがたい
- ・ 家にいながら講義など受けることが可能
- ・ 科によっては在宅ワーク可能となっているため
- ・ 業務の効率化により改善を期待する。
- ・ 業務効率があがる場合には、改善すると思う
- ・ 効率よくなり、その分の時間を違う仕事に避けるから。
- ・ 効率化をはかれると思うから。
- ・ 雑務の減少
- ・ 仕事とプライベートの両立のハードルが下がると思います
- ・ 時間効率が良くなったため
- ・ 時間短縮
- ・ 自宅での時間が増えるので
- ・ 自宅でもオンラインで講義等に参加できるので場所を選ばないメリットは大きいと感じた。
- ・ 自宅で学会参加できる。子供の預け先について気を揉まずに済む。
- ・ 場所を選ばない
- ・ 情報共有にかかる手間や時間が短縮されると思うから。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・ 無駄なタスクが減るから

**思わない

- ・ この大学にワークライフバランスという概念がありますか
- ・ どこが ICT 化されているのか、全くわからない。
- ・ 実際の仕事量が多すぎてワークライフバランスの改善までには至らない
- ・ 職場以外での労働を余儀なくされるから。

**わからない

- ・ まだ不明
- ・ 医師の仕事量は変わらない

臨床研修医・男性

**思う

- ・ ICT 化により業務の時間短縮が見込めるため。
- ・ 隙間時間を有効活用できるようになるため
- ・ 仕事の時間をある程度は短縮してくれると考えます。
- ・ 時間短縮できる部分があるから
- ・ 無駄な時間の削減

**思わない

- ・ 診療業務を自宅で完結する等は不可能と思われるから

**わからない

- ・ 現場の医療は ICT のみで解決できない部分が多いと思われる
- ・ 時間削減にはつながるが、これにより得られた時間を別の業務に充てることが多くなると考えられるため。

臨床研修医・女性

**思う

- ・ 講演会などでの移動時間が減るから。
- ・ 仕事の効率化が進むため
- ・ 時間が効率的に使えるから
- ・ 自宅からも参加できるので自宅の時間が増える。
- ・ 自宅から参加できることから、自宅で過ごす時間が増えるため
- ・ 病院での講演などは参加している間に残業につながるがあったため、職場以外でオンラインで参加できることはそれらを防げるため。

その他の医師・男性

**思う

- ・ どこでも参加できることのメリットは大きい。
- ・ 移動が減る分、時間が増えるため
- ・ 移動時間を短縮すれば労働時間も減少してワークライフバランスも保ちやすくなる。
- ・ 遠い学会会場まで移動する必要がなくなるため。
- ・ 業務が効率的になり、無駄な作業を減らせる。
- ・ 効率的に業務をすすめることができると思う。ただし、空いた時間でさらに研究や診療をするよう強要されることが目に見えている。
- ・ 自宅からの参加が可能となった
- ・ 自宅にいながら仕事もできるため
- ・ 自分の時間を確保しやすくなる。比較対象が全国になるため診療などの意識が変わった。
- ・ 生産性が向上するため。
- ・ 多様な働き方が選択できるようになるから。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

- ・無駄を省けるため
- ・有効に時間を使う

**思わない

- ・ICT 化もそれほど進んでいないから。
- ・何も変わらないから
- ・手当のつかないサービス残業が増えるだけ
- ・他の人の負担が増える

**わからない

- ・仕事は効率的になったが仕事自体が増えるため
- ・良好なワークライフバランスの内容は、人により多様。

その他の医師・女性

**思う

- ・これまで要していた仕事の時間の短縮につながる可能性があるため。
- ・リモートでの仕事がある程度可能になる
- ・移動時間がなくてよいから
- ・移動時間がなくなり生産性が高まった。
- ・遠方の学会に長時間かけて出かけることが少なくなるので、その分の時間を違うことに使えるので。
- ・改善すると思いたいからです
- ・現場にいないことができなくても動向を把握することができるため時間削減や効率化につながると思う
- ・効率的になりそうだから
- ・自分で勉強や教育機会のタイミングをコントロールできることで時間外労働が減り、純粋な診療や家庭時間を拡充することが出来ると思うから。
- ・無駄な業務が減り、自由時間が増えた

**思わない

- ・ICT 化するための附随業務の増加
- ・関係ないと思います。
- ・結局、臨床において緊急時にはいつも同じ人員が時間外業務にあたることになる。ICT 化しても人手が必要な業務はのこりそれを対応するのもしいつも同じ人が気づいてカバーすることになる。

**わからない

- ・ICT 化の推進により、院内に常駐する医師数は減りワークライフバランスは改善すると思うが、上記により相談事例はむしろ増え、オンコール医師の負担は増えるかもしれない。
- ・ついていけない気がする。
- ・遠隔で参加できるメリットはあるが、保育や介護しながらの参加はそもそも無理
- ・関係性が不明
- ・実感できていない

その他の医師・回答しない

**思わない

- ・参加者にとって聴講するという技術的な新鮮さが消えていくと予想するから。

その他(特任研究員など)・男性

**思う

- ・業務の効率化につながるため
- ・業務の時間が短縮されるため。
- ・あくまでマインドが大事。ICT 化だけでどうにかなるわけではない。特に年寄りはそのような発想に流れがち。

45. ICT 化の影響により、ワークライフバランスは改善すると思いますか【記述】

**わからない

- ・ 旧態は変わらない
- ・ 仕事量が大幅に軽減すればワークライフバランスが改善する可能性あり
- ・ 診療においては遠隔でオーダーリング、検査結果の確認ができれば、改善に寄与すると思われる。

その他(特任研究員など)・女性

**思う

- ・ 移動の必要性がないため時間の消費が少ない
- ・ 移動時間がへる
- ・ 効率よく他の業務を組み合わせることができるようになるから。
- ・ 子育て世代には特に大きいと思います。
- ・ 紙で提出していた報告書などを事務方に持っていく時間が無くなる。
- ・ 時間が読める
- ・ 自分の時間に合わせて受講できる
- ・ 無駄な業務が効率的に行えるようになる

**思わない

- ・ そのスタッフのポテンシャルだと思う。
- ・ そんなに何もかもよくなるものではないでしょう
- ・ 取捨選択が以前より厳しく行う必要があると感じるため
- ・ 切り替えがしづらくなる。エンドレスになる。

**わからない

- ・ 改善が進めば可能だと思う。
- ・ 今の業務では ICT 化が必要ないから